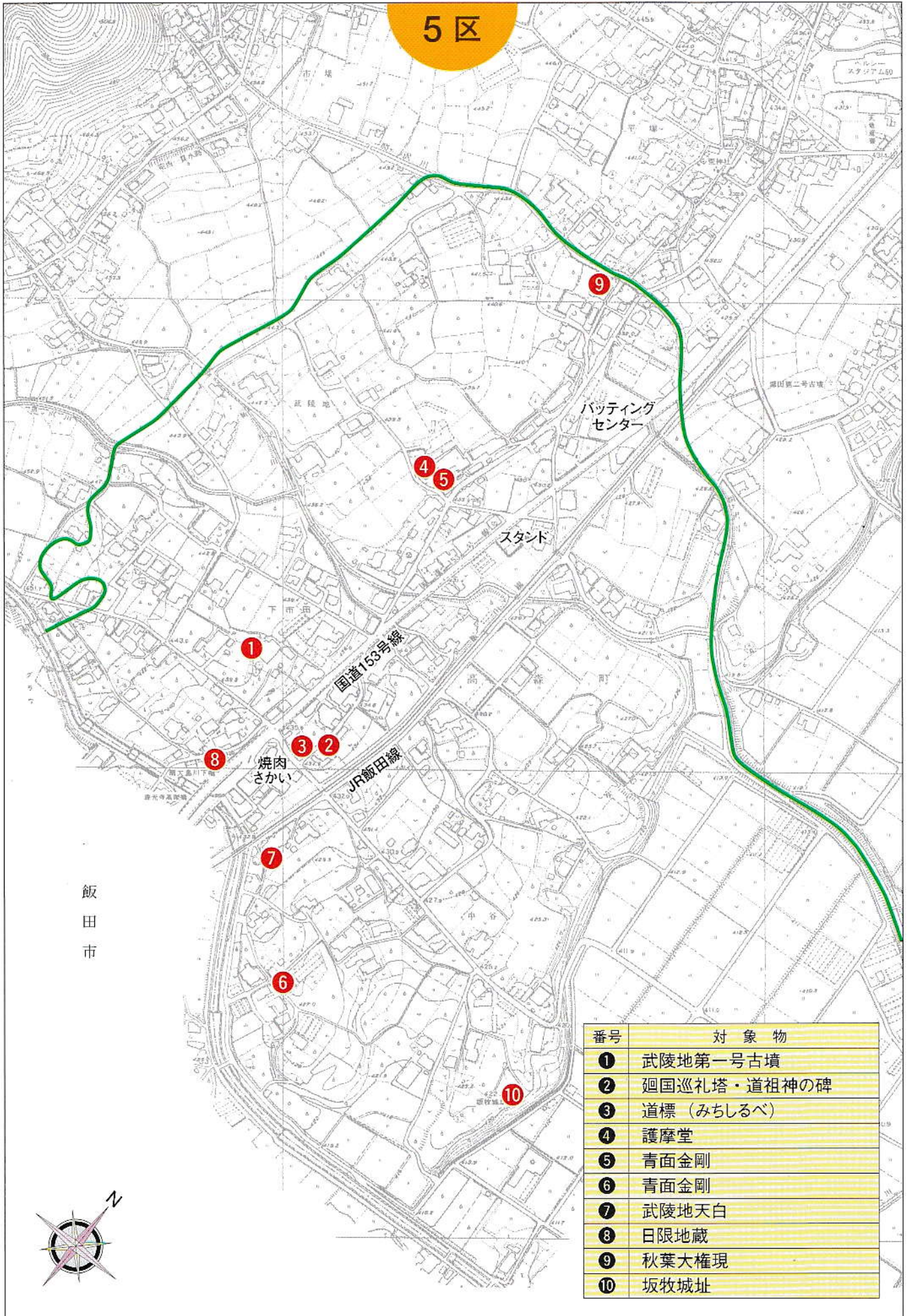


5区



飯田市

番号	対象物
①	武陵地第一号古墳
②	廻国巡礼塔・道祖神の碑
③	道標（みちしるべ）
④	護摩堂
⑤	青面金剛
⑥	青面金剛
⑦	武陵地天白
⑧	日限地藏
⑨	秋葉大権現
⑩	坂牧城址

① 武陵地第一号古墳

〔五区〕

〔所在地〕小川博志氏宅南



古墳上の石碑



武陵地第一号古墳の遠景



武陵地第一号古墳

武陵地第一号古墳の規模は高さ4.0m、奥行きは9.0m、底幅1.5mあり、その容姿は墳上に一位の老木がそびえ立ち、それらの樹下には数基の石碑が建ち並ぶ。

さらに古墳から出土した富本銭や副葬品の数々の評価は古くから高く、町内外から注目され、平成7年（1995）2月9日、高森町有形文化財の指定を受けることになった。

【古墳上の石碑】

- ◎秋葉大権現 寛政元年（1789）11月16日建立
- ◎金毘羅大権現 天保9年（1838）8月吉日建立
- ◎蚕玉様 嘉永4年（1851）

現在行われている秋葉大権現の祭祀については、一時途絶えていたものを（故）北林只人氏の提案により講人を集め、講人20余名によって行われている。

古墳から出土した富本銭

② 廻国巡礼塔・道祖神の碑 かきくじゅんれいとう どうそじん 〔五区〕



安政四年（1857）丁巳5月吉日
棚田平三郎建立

〔所在地〕 久保田利明氏宅南

観世音は庶民に最も親しまれた仏で各地に観音堂が設立されるが、三十三観音に因んで、西国・坂東・秩父は三十四ヶ所がそれぞれ決められ、四国は八十八ヶ所になるが、これを全部巡拝することは容易ではないが、百八十八ヶ所の巡拝が完了すると供養のためこのような塔を建てた。



廻国巡礼塔・道祖神の碑のある風景

※道祖神については、二区の2-18（道祖神）の解説を参照。

③ 道標 みちしるべ 〔五区〕

〔所在地〕 久保田利明氏宅南

久保田利明氏が祖父（熊弥）から聞いた話では、確か明治の初め（明治2年〜3年頃）ぜんかうじにお参りに行く皆さんが道を間違えて座光寺のごんが清水方面に行く人が多く、そこで耕地（今の武陵地）の皆さんが手ごろな石を捜し石工に頼み「左ごんがしみず」と「右ぜんかうじ」の二つの道標を建てたそうである。

現在「ごんがしみず」の道標は行方不明である。



右ぜんかうじの道標

4 護摩堂ごまどう 「五区」

350年前(1658頃)建立
 【所在地】仲平信明氏宅横

乳木などを燃やし仏に供養祈願する密教(大日如来の教え)の秘法だと言う。その仏教を祀ってある堂である。祈禱師は大方の区域が決められており、法院様(ほうげんさま)と呼ばれ、区内の依頼者の祈禱に携わった。年一回、同家の者により氏神祭をしている。



護摩堂の内部



護摩堂



護摩堂と言面金剛遠景

5 青面金剛しょうめんこんこん 「五区」

(建立時期 不明)
 【所在地】仲平信明氏宅約10m前
 田村街道沿い

お庚申様の本体は青面金剛とされている。他に二区の庚申供養碑、三区の猿田彦命、四区の猿田彦大神等がある。庚申というのは、干支の庚と申の重なる日のことで、60日に一回まわってくる。

中国から来た信仰で、この夜眠っている間にその人の体内に居ると言う。三戸と言う虫がいて、この虫が飛び出しその人の悪事を天帝に告げると言う。そのため地域の人が集まって「青面金剛」を祀って寝ずに日の出を待つ。これを「お日待ち」といい、このような庚申信仰が盛んになると、お日待ちだけでなく「庚申供養塔」の建立にまで発展し、各所に塔が建ち、町内にはこの信仰に関係ある石造物は実に130有余存在するようである。



6 青面金剛しょうめんこんこん 「五区」

安永3年前(1774)5月建立
 【所在地】武陵地二原影氏宅の横

所有者は神奈川県に移住の林節子さん(元地元地主)。現在地に移転する前は久保田元治氏宅の北にあった。

所有者が遠方のため親戚一族が回り番で、年一回ずつの祭事を実施していたが、ここ数十年途切れている。(座光寺の親戚 古老 今村卓蔵氏に聞く)



7 武陵地天白

〔五区〕〔所在地〕宮下正實氏宅南

一口に海や川を鎮める神と言われている。また北極星、金星の総称でもあると言う説もある。天白神は養蚕の神、織物の神とも言われている。この他、天白神は川を鎮めるとも言われ、各地の川のある地域に多い。川の神であるがために龍神として祀られている場合もある。

天白の天は、倭朝に従った首長の称、白は、白羽神^{やましろがみ}麻の種子を播き栽培を教えた神、星を祀り天狗をお使いとする呪いの術を中心とした信仰。とにかく古くからの先住民で、特定の人でも神でも無く、焼き畑農耕により生活。

天白信仰民は、原始農耕、原始漁労の人達であって、遺跡は原始狩猟民よりも山岳を下った海辺や河川に沿った位置に見られる。やがて水稲文化を持ち込んだミシヤグジ神を請け入れて共存共栄していた。始狩猟民↓天白信仰民↓ミシヤグジ神信仰神、このような関連があるという。

天白については、種々の説があるが、定説はない。この地に神々がいつ祀られたか定かでないが、秋葉様がどうやら今の祀神の中心だという。(地元古老の話)

当時の地域の水害を防ぐために、河川の曲流の角に2トンと思われる巨石を敷き、数段積み重ね秋葉様を祀った(創設年号不明)。社庭面積二三反歩余り、周囲は大木の榎、杉、松があり、子供の格好の遊び場であった。昭和17年(1942)食料増産のため伐採。三六災害(昭和36年)後20体余りの氏神は三戸を残して自宅に持ち帰る。災害後社庭面積減少により、秋葉様周囲の石碑を現在の位置に集めた。



武陵地天白

8 日限地藏

〔五区〕〔所在地〕五区武陵地

今から130年前(1850年頃)、南大島川沿いに正直で働き者の一人の貧しい男の人が住んでいた。病気で亡くなる間に「お地藏様に祀って下さい」と言い、息を引き取った。

その後ある年、村に重病人が出て医者や祈祷師に見てもらったが、一向によくならなかった。ある晩病人の枕元に地藏様が立ったところ不思議と回復した。

以来今日に至るまで日を決めて祈願する人が多く、線香の煙の絶えることがない日が続いている。

例祭は春4月14日、秋10月14日に盛大に行われている。



日限地藏



日限地藏遠景

あき ば だい こん げん
9 秋葉大権現

〔五区〕 〔所在地〕 加藤敦子氏の北側

四石碑を総称して秋葉様と呼んでいる。
 (加藤敦子さんから聞く)

秋葉大権現碑 天保2年(1831) 11月吉日建立
 津島様 大正2年(1913) 4月建立
 庚申様 不明
 石灯笼 明治23年(1890)

秋葉様の祭事の講中員は約40名ほどいて、約20年くらい前まで、毎年3月16日と12月16日に実施されていた。これを復活しようと講中員から発案があり、平成21年度(2009)に秋葉神社(静岡県)へお参りし、普通りの祭事として実行する予定であるとのことである。



秋葉大権現



さか まき じょう し
10 坂牧城址

〔五区〕 〔所在地〕 新井原東端下段の小台地

今から400年前(1585年頃)、天正の頃までは松岡城に付属する松岡八十騎の一人、坂牧氏を主とする出城であった。

この地からは東は天竜川を越えて林、供野(伴野)、阿島から神の峯にかけて、又南は座光寺、飯沼、松尾方面を一望におさめる。

当時は、東に知久氏、南に小笠原氏が在り、それらに備えるには格好の見張りの場所であった。

城址には堀らしいものはあるが、不明で区画が判然としない。近くに坂牧氏の枯古墳がある。

尚、女中と馬の悲しい物語も残されている。



坂牧城址の遠景

